

大会挨拶

慶応義塾体育会理事
バドミントン部長代理

生田正輝

バドミントンは比較的新しいスポーツである。それにもかかわらず、その慶応定期戦も回を重ねて、ここに第16回大会を迎えることになった。この間において、この定期戦が、わが国におけるバドミントン界の発展のために果たして来た役割は、まことに大なるものがある。また、周知のように、両校からはいくたの名選手を送り出して来たのである。

このような栄光に輝く歴史をもつ定期戦に出場する諸君は、その責任が極めて大きく、その歴史に輝かしい一頁を書き加えることが期待されている。日頃から、この日のために厳しい練習を積み、努力を重ねて来られた選手諸君が、そのもてる力を十二分に発揮し、堂々と試合に臨まれんことを衷心より期待してやまない。勝敗はともあれ、勝つための最善の努力をつづけ、諸君の生涯の思い出となるような立派な試合をされんことを両校選手に、切に希望するものである。

早稲田大学
バドミントン部長 岩片秀雄

両校毎年9月の第二日曜日に相会して一年間の精進を結集して技を競うことは、私にとって誠に待ち遠しい一大関心事である。

本年は数えて第16回に当るが幾多の過去の様相を思い出すにつけ、脈々と連ってきたこの定期戦の意義を考えてみることは決して無駄なことではないと信ずる次第である。

大学の運動部の中に在る立場から見ただけは、新しい特別の使命を持つに至ったことは当然の結果である。この使命を果す為に、スポーツマンシップと技術に対する確信リーダーシップとを兼ねることが必要でこの故に各人は個人としても、あらゆる試合に勝つことを目標とする無言の天来の声を背負っているわけである。

勝つために努力する、精進する、この結果戦いに臨んでは已の最善を尽くすことを目標とすべきである。戦い終つては勝つだけが最良ではなく、たとい戦已れに利あらずとも悔を残さぬよう全力を尽したとの確信があれば必ずしも不可としない否むしろ却而これが大切な点である。従つて日頃の精進を十分に発揮し得るよう心身の鍛錬強化こそ、或いは技術面と共に更に重視すべきものであることを強調したいのである。昨年の最上級生はOBとして現役を去り、又新勢力を導入、春のリーグ戦・夏の合宿および訓練を経て今日に来ました。両校の選手・部員並びにOB諸君は十分の備えは出来上つて信じています。全力を尽して戦い、あとに悔を残すなかれ、然らざればこの定期戦の真の意義は失われることを懸念する。

この定期戦を育成して来た両校OB諸氏の愛情と努力に感謝を又明日よりの指導を願う。さもあれ盛會を折り、或果を信じて、バドミントンの祭典・第16回早慶定期戦を祝す。

挨拶

三田クラブ会長 吹野家寿吉

毎年九月になると必ず行われる行事に会社の決算と此の早慶戦があります。

会社の決算は半年の業績を集計して如何に良い数字が出るか？ 配当はどの位になるか？ 又それに伴い12月に支給されるボーナスはどの位だろうかなどと非常に我々サラリーマンにとっては興味ある事柄であります。一方この数年の早慶戦は勝負は明瞭であり、唯藝がどれ程善戦するかに興味がある程度であり、伝統ある早慶戦としては非常に淋しい事でありませぬ。

藝の失われたる栄光はいつ再び手に取れる事が出来るのでしょうか？ 往年のバドミントン界をリードした藝の姿は再び見られるのであろうか？

此の問題を解決するのは我々自身にあると思います。私達は此の早慶戦に際して深く反省すべきでありましょう。優秀なプレーヤーが入らないからとか、学生の体育会に対する考え方が昔と違っているとか言っているも解決しない問題だと思います。現状に於いて如何にするかの問題でありその解決に最も大切な事はOB会全員の現役に対する熱意と愛情ではないでしょうか？ 此の点は私自身深く反省せねばならないと痛感致しております。どうかOB全部も真剣に考えて頂きたいと思います。

栄ある早慶戦に際して秋自身の至らぬ点を敢えて発表し現役OB共に一九九となって失なわれた栄光を再び手にする様努力しようではありませんか。

稲門クラブ会長 津田信一

早いもので、もう一年が過ぎ、恒例の早慶戦の頃となった。七夕ではないが、一年に一度、懐かしい顔がみられるのは、この上ない楽しみである。しかし、この機会に一言、苦言を呈すならば、出てくるOBはきまっています、出てこない人は全然顔を出さないということである。この間の断層は早慶戦が今一步の飛躍をせねばならぬ時期だけに残念である。失礼かもしれないが、はっきりいって、この事は、早稲田よりも、慶応のOB諸氏にいえると思う。大学の体育部は、現役だけでなく、現役とOBとが一体となって部の発展に力を注ぐ時、その真価があらわれるのであり、事実、それが行われている部は強いのである。近年の入学難は、慶応にも早稲田にも少なからぬ影響をおよぼしている。しかし、それは決して弱くてよい理由にはならない。こんな時こそ、OBが陰になり日向になりぬ協力が必要なのである。

オリソピックもそうだが、早慶戦も祭典ではない。秋のリーグ戦の実力打診の機会として各方面の注目をあびるようになった時、はじめて早慶戦の真価が発揮されよう。この定期戦が20回をむかえる時には両校がリーグ戦で優勝を争うまでにはしようではないか。新興勢力におされてばかりいずに、慶応は本来の強さにもどり、早稲田も更に前進しよう。第16回定期戦をむかえるにあたり、OB諸氏の一層の奮起を促すとともに、現役諸君の健闘を期待する。

監督挨拶

慶応義塾大学監督 吉田格磨

秋のシーズンのトップを切って恒例の早慶定期戦を迎え毎年のことながら新たな気持ちにさせられます。

この定期戦は秋のシーズンの戦力を計るテストケースとして重要な意義があり、特にこの定期戦を勝ちとる事は一部復帰の可能性がでてくるのであります。

最近では四連敗という最悪の成績で、なんとしてもこの泥沼からはい上がりかねばなりません、その為にも早稲田大学より数倍の練習と各人の努力が必要でそれを行なわねば弱体の当校にとってには勝利は不可能であると確信しております。

最初の一敗のときは私自身監督一年生で今でも喜んでいる早稲田大学ベソチの光景が忘れられません。それ以来大差の連敗、これは慶応大学の共通した弱点である「ネバリ」のなさに原因していると思えます。今日早稲田大学の活躍があるのは踏れても踏れても伸び上がる精神力の差が現在の一部と二部のわかれ道になっていると思います。今回の定期戦も劣勢は免がれませんがなんとしてもポイント差をちよめその結果勝利のチャンスがでてくると信じております。我々はこの連敗の汚名を挽回すべく夏期合宿に於て練習に励んでおります。必ずその成果が発揮され定期戦・リーグ戦で年三回早慶戦をやりたいと全員必至の努力をしております。秋達OBも日頃の成果を発揮し現役選手に対し刺激剤となりたいものであります。

両校とも日頃の練習による実力を十二分に発揮し、充実した試合が展開されることを期待すると共に、我々は早稲田大学の胸をかりてなんとか一部へ返り咲きたいと思っております。最後に今回の当番校早稲田大学の関係各位に御尽力を頂き心より御礼申し上げます。

早大助監督 福井正康

1968年夏の行事として第4回国際学生バドミントン選手権大会が東京で行われたが、吾々早慶両校は秋のシーズンのトップを飾る第16回早慶バドミントン定期戦にまず全力を傾けようとしている。

慶応大学今夏の合宿は千葉県野田市とされているが、きっと打倒早稲田を目標に猛練習をされたことでしょう。またOB戦には本年めでたく還暦を迎えられた兵藤先生も森友理事長と組まれ出場されるといふ、その意気まさに壮であります。

吾々早稲田大学もこの慶大OB・現役諸兄の熱意をまずしっかり受けとめ、然る後これをうんと押し返すべく気力・体力を充実させ、勝山合宿、勿来合宿等で行っている。

そして現役男子の五連勝は勿論、女子戦、OB戦、さらに高校戦の連敗にも終止符を打ち対慶応戦を完勝すべく準備万端おこたらない。開幕が待たれる次第ではある。

早慶定期戦によせて

32年経済学部卒業 岡 本 圭

慶早戦と共に16年今日に到った私ですが、定期戦という両校OB現役諸兄と御会い出来るのが楽しみです。が、こゝ数年塾の状態を考えると心が重い。過去の栄光を知っているOBにとって今日の屈辱は耐えられないものがあります。これは勿論現役諸君にも責任があるが、昨年兵藤先生が「早大OBは現役戦、懇親会に出席、慶大はOB戦が終るときささと帰り残るは数名、早大が十数年の連敗から脱し得たのはOBの力である。」と書いていらっしゃるが、低迷を続けている時こそOBが一丸となってもりたてゝ行かなくてはならないと思います。過去慶大が栄光の座にあった時早大がいかにかひたむきな努力を重ねて現在の地位に到達したか皆様よく御存知の事と思います。今こそ慶大は過去を捨て早大の歩んだ道を目標としてカソバツクしなければなりません、現役諸君この慶早戦こそなんとか一矢をむくいて下さい。

OB諸兄の絶大なる応援を御願ひします。

最後に熱心に指導していただいているOB諸兄には前言に失礼の段御許し下さい。

36年法学部卒業 小 林 亘

毎年残暑の候となると、今年も早慶戦の時期がやってきたなあど過ぎし現役時代を想い出すのは私一人ではないでしょう。そんな時は、若さを取り戻して、一つOB戦でハッスルしてやろうという気持ちになるのであるが、会社勤めともなると、中々暇を見つけてことがむずかしく、思うように事前の練習も出来ずに終り、試合に臨めなくなってしまうのである。卒業しても早慶戦のOBの仲間には、毎年必ず入れてもらうことを楽しみにしていたのであるが、九年この方OB戦に出場した回数も数える位しかない。誠に残念である。今年こそは、練習不足はともかく、久し振りにコート上でバンドミントンを楽しみたい。余りハッスルすると苦しみに変るのでOB戦はなごやかにいきたい。

指折り数えると今年で、この定期戦も第16回目を迎えた訳であるが、この早慶戦が名実共に日本一を決する時代を築きあげたいという我々の念願がいまだ実現できていないのは淋しい限りである。早慶戦両校で雌雄を決することになると両校のレベルが同じようになり、しかもそれが日本を代表するようなものでなければならぬ。片方が弱くて片方が強すぎても勝負にならないし、両方が弱かったらこれも全然話にならない。一日も早く我々の念願が叶う時が来ることを祈って止まない。

とにかく、今日の定期戦は現役戦においては早稲田の勝と聞いております。慶応さんの奮闘を期待します。OB戦は愉快に楽しくやりましょう。

高校メンバー

慶応義塾高等学校メンバー

主将	那波立郎	3年	慶応義塾普通部出身
主務	梶田行雄	3年	〃
副将	松尾陽光	3年	平尾中学校出身
選手	坂木敏久	3年	東中学校出身
〃	西村彰夫	3年	麴町中学校出身
〃	数原徹郎	2年	慶応義塾普通部出身
〃	山本昌之	2年	〃
〃	中村秀夫	2年	練成中学校出身

早大学院バドミントン部

主将	松下高輝	3年	青山中学校出身
副将	田中康二	3年	目黒東山中学校出身
マネージャー	鯨岡雅高	3年	井萩中学校出身
選手	柴田澄雄	3年	目黒第九中学校出身
〃	桐生孝	3年	明星中学校出身
〃	勝倉昇	2年	上野中学校出身
〃	田島尚樹	2年	神明中学校出身

慶応義塾大学メンバー

部	長	代理	生	良	慶応義塾大学教授		出身
部	長	理	平	輝	慶応義塾大学教授		
副	部	長	生	正	〃		
監	部	督	森	雅	〃 高校教諭		
コ	一	子	吉	格	昭和32年経済学部卒		
	〃		鈴	明	昭和39年法学部卒		
	〃		田	進	〃		
	〃		井	洋之助	〃 経済学部卒		
主	〃	將	西	晃	法学部	4年	鷹宮高校
主	〃	務	林	幸一郎	〃		下関西学院
副	〃	將	山	生	〃		長田市立高
選	〃	手	須々々	林	〃		上田市立高
	〃		平	克	〃		秋田市立高
	〃		佐	信	〃		秋田市立高
	〃		佐	慶	〃		慶応北高
	〃		本	慶	〃		慶大北高
	〃		後	郁	〃		灘
	〃		古	信	〃		緑ヶ丘高
	〃		福	由	〃		富山高
	〃		中	一	〃		富一慶高
	〃		宮	英	〃		慶須賀高
	〃		鈴	博	〃		慶須賀高
	〃		齊	夫	〃		慶須賀高

女子大学メンバー

選	手	北	島	綾	子	文	4年	慶応女子高	出身
	〃	五	味	幸	子	学	3年	〃	
	〃	富	田	鮎	子	部		東京女学館	
	〃	三	原	子	耶	部	3年	桜蔭学園	
	〃	川	崎	美	紀	部	2年	慶応女子高	
	〃	堀	切	佐	紀	部	1年	〃	

早稲田大学メンバー

部長	片村 秀雄	早稲田大学教授					
副部長	岩河 秀平	昭和28年商学部卒					
監督	津田 信一	昭和28年商学部卒					
副監督	岸田 清敏	教育経学部	4年	弘前高	出身		
主将	佐藤 敏雄	政経学部	4年	小石川高	出身		
副主将	阿藤 江川	商学部	4年	神戸台高	出身		
選手	藤田 康夫	教育経学部	4年	白鷗高	出身		
	山五十子	政経学部	4年	墨田川高	出身		
	後藤 伸治	理工学部	4年	新潟商高	出身		
	近藤 是也	社会学部	3年	木更津高	出身		
	阿野 野部	社会学部	3年	向丘高	出身		
	阿武 武	商学部	2年	法政二高	出身		
	杉本 進	教育学部	2年	関東学院六浦高	出身		
	佐藤 和裕	社会学部	2年	武生高	出身		
	工藤 明二	社会学部	2年	仙台南高	出身		
	出澤 邦昭	社会学部	2年	札幌東高	出身		
	林 真史	社会学部	2年	小石川高	出身		
	今井 茂	社会学部	1年	熊本高	出身		
	大森 史満	教育学部	1年	浦和西高	出身		
	大川 憲一	教育学部	1年	七尾高	出身		
	大川 憲一	教育学部	1年	仙台商高	出身		

女子大学メンバー

選手	大村 悦子	文学部	4年	熊谷女子高	出身
	村上 悦子	教育学部	3年	神戸高	出身
	安野 哲子	文学部	2年	名古屋市立柳里高	出身
	木村 哲子	教育学部	2年	賢明女学院	出身
	鈴木 子	教育学部	1年	山形東高	出身

主 将 抱 負

慶応大学バドミントン部主将 西 沖 晃

早慶定期戦も今年で16回目を迎え、ますます伝統の重みを加えつつあります。残念ながら、我が部は早稲田に目下4連敗しており、関東大学リーグ戦でも早稲田は一部、慶応は二部とその差は歴然たる事実として認めざるをえません。しかしながら、映えある伝統を持つ我が部が、この期間、ただ手をこまねいて座視していた訳ではありません。監督さん始め、コーチの方々の御指導により、長期的視野に立って部の再建に努力してきました。今はその過渡期といえますが、主力である三年生の平井、佐藤等が着実に伸びて自信をつけてきており、又、一、二年も元氣、いっぱい“打倒早稲田”の意氣に燃えていますので、好試合をお観せできると思います。そして、今定期戦をその本来の趣旨である“学生バドミントンの最高を競い合う大会”に名実共に発展する為の一つの踏台といたく思います。

早稲田大学バドミントン部主将 佐 藤 清 志

早稲田と慶応のこの一戦は日本の近代アマチュアスポーツの発展とともに歩み、数々の競技において多大な貢献をしてきました。

我々バドミントン部はこの伝統ある一戦を早稲田に迎えるに当って慶応を打ち破るべく全員一丸となって練習に励んできました。過去4連勝はしているものの11連敗の借りを返すにはまだ速く及びません。

年に一度のこの定期戦を何が何んでも勝ち取りたいと思います。

我部は今季多数の先輩を送り出した後、数年ぶりのピンチにありました。しかし、全員よく自覚し一丸となって春は無事切り抜けることができました。

その後の練習、合宿等で力もつき、国際学生選手権にも代表選手を送り出すなどして意氣大いにあがっている現在です。

ここで早慶戦に大勝してシーズン後半の明るいスタートを切りたいと思います。

バドミントン会の現況

慶大バドミントン協会理事 森友徳兵衛
日本バドミントン協会理事 B

福井早大の要請によって、43年 I. F. 度総会から世界バドミントンの行方を追って見よう。

恒例の通り総会は7月2日、理事会は3日に、マッカ、ロンドンで開かれ、日本からは I. F. 理事高倉副理事長が4度目の出席をした。

① フレームショット逆戻し提案は、過半数をとったが規定の%に達せず、現行の通りとなった。

② I. F. 議決権の問題は、規約委員会に附託され、研究されることとなり、一步前進したが、当面の結論は変化がないものと予測される。

③ 第5回ユ杯は日本案の44年6月8日～14日が承認され、また、インターゾーンは欧対亜、豪対米と定めた。

④ ダブルスのルールに一部改正、ルール14条でダブルヒットが少々変わったが、後日の正式決定通知を待つて N. B. A. で検討する。

⑤ オリソピックについては本部がやつと動いた所なので、速い夢の範囲を出ず、今の幼稚園の子が第一線でプレーする頃実現されると思う。

全般的に見てインドネシヤは第7回ト杯経緯と収支決算書の不手際から、本部側より、かなり痛いあてこすりを浴びて立場はグソと落ちた。反面、高倉氏の引続いたの努力と、日本選手のヨーロッパに与えた好印象好成績が来年のユ杯、訪日などの一連のムードから大いに日本株が上昇した。

ユ杯については、アメリカ株が暴落、欧州で、英対デンマークがデットビートを演じて代表権を争うものと見られ、確率は全く50%ずつにわれ、来年3月、全英の直前に行なわれるこの決勝戦は、近來にない見ものであるうといわれている。

全くの私見であるが、紙一枚の差でデンマークが東京にくと予想しているが、インターゾーン決勝で、米を破ったインドネシヤと莫絶な対日本挑戦権争いを満員の都立体育館で展開するだろう。英がくればインドネシヤが、デンマークならば5分5分、或いは、日本の前例に習ってデンマークが一気に抜けてくる公算を立てる。迎え撃つ今井監督の心境や如何。と云う所でK-W戦の盛典を祝福し各位の健闘を祈る。

祝第16回早慶バドミントン定期戦

グラソンド坂上

ワセダ・スポーツ

早慶戦によせて

41年文学部卒 水野美奈子

さわやかな初秋のもと、この第16回早慶バドミントン定期戦にあたり、現役選手の御健闘ならびに諸先輩の御奮闘を大いに期待しております。

卒業して数年がたち、バドミントンから多少遠ざかった現在でも、なお早慶戦はリーグ戦やその他の個人戦とは異った響きをもって懐しく思われます。年々の早慶戦がそれぞれ当時の状況を私に思いおこさせるからです。たとえば、まだ高校生の頃に観戦した息づまるような早慶戦の印象、それを思い出すことによつてよみがえる高校時代。毎年毎年強い選手が出場される早稲田さんを羨望の眼で見詰めつつ少しでも力の差をせばめたいと思つていた大学時代等々……。

現役時代には考えてみなかった早慶戦特有の良さ、あじといったものはこんなところにあるのではないかと思う今頃です。

これからの両校の善戦を祈つてやみません。

40年政経学部卒 吉良悠一

第9回が私にとつて最初の早慶戦でした。真白な日吉の記念館へつづく緑のトンネルは早稲田の街と違って大変すがすがしく感じられたことでした。そしてこの大会で同級の長谷川君と対戦してから、第10回、第11回と、ライバル的に対戦することになりました。

第10回は、1セット10-0でリードしていたゲームを逆転され、第11回は、1セット、セッターソングでラリー中にネットへ飛び込んだ長谷川君が、目の上を切り救急車で病院へ……。そして第12回は二人とも主将として対戦することになっておりましたが、定期戦一週間前の関西遠征で右手首を骨折して出場出来ず、この事故で、下級生が、発奮し、初めて、1ポイント差で勝ち、左手で優勝カップを受け取った時は、勝ったうれしさと同時に彼と対戦出来なかったのが残念でした。

その後OBになつても、全国大会で逢うのがの楽しみで、昨年の社会人大会でしたが、ある事情で長谷川君とダブルを組むことになり、ラッキーもあつて決勝まで行けたのも、多分に早慶戦のおかげであると思つております。現役諸君も単に対校意識だけでなく、個人的にもライバル意識を強く持つて早慶戦に各大会に競い合つてほしい。